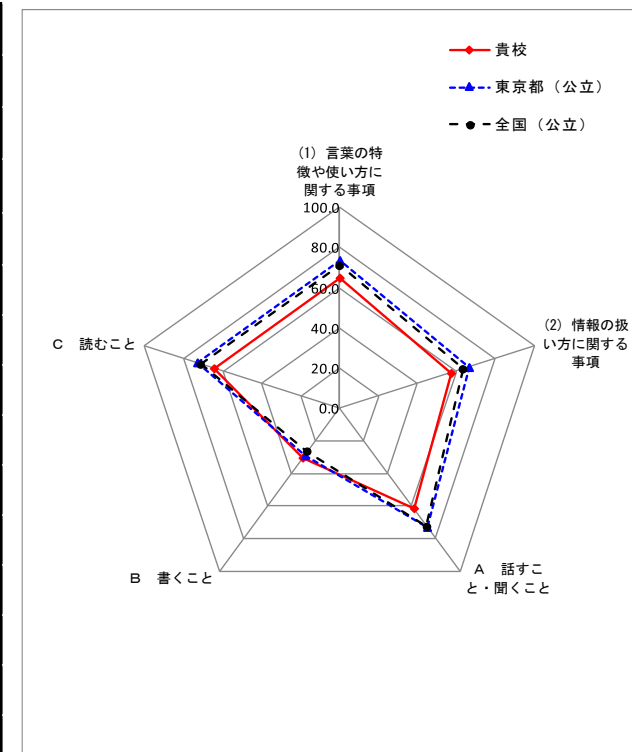


令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果及び分析・考察 【国語】

| 分類 | | 区分 | 平均正答率(%) | | |
|-------------------|----------------------|---------------------|----------|------|------|
| | | | 本校 | 東京都 | 全国 |
| | | 全体 | 61 | 69 | 67.2 |
| 学習指導 要領の 内容 | 知識及び 技能 | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 65.0 | 73.6 | 71.2 |
| | | (2) 情報の扱い方に関する事項 | 57.2 | 66.5 | 63.4 |
| | 思考力、 判断力、 表現力等 | A 話すこと・聞くこと | 61.8 | 73.5 | 72.6 |
| | | B 書くこと | 30.3 | 28.9 | 26.7 |
| | | C 読むこと | 64.5 | 73.2 | 71.2 |
| 評価の観点 | | 知識・技能 | 62.8 | 71.6 | 68.9 |
| | | 思考・判断・表現 | 58.5 | 67.0 | 65.5 |
| 問題形式 | | 選択式 | 66.8 | 75.9 | 73.6 |
| | | 短答式 | 57.9 | 66.4 | 62.7 |
| | | 記述式 | 43.9 | 51.4 | 51.1 |

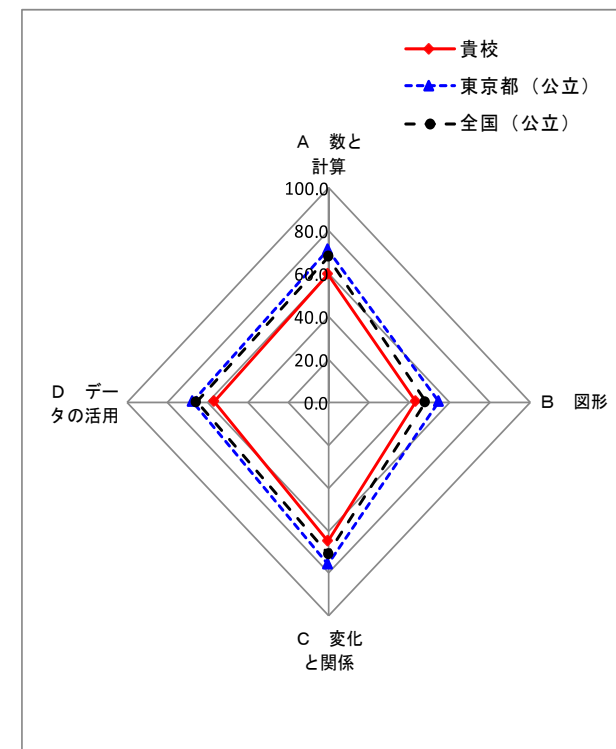


【考察】

- 全体の平均正答率は、全国から6.2ポイント、東京都から8ポイント下回っている。
- 「知識及び技能」における『我が国の言語文化に関する事項』では全国から約6ポイント下回っており、言語活動の充実を図るための授業の工夫を考えるとともに、児童へ言語についての興味関心をもたせられるような主体的な学習から、言語文化に関する知識・技能の向上をめざす。
- 「思考力・判断力・表現力等」における『読むこと』については、全国、東京都の平均より上回っている。ただ、問題形式の記述式に関する正答率は全国・東京都の平均正答率よりも下回り、自らの言葉で問題に答えることを苦手とする児童が多いことがわかる。普段の授業において、自分の言葉や記述で表現する活動を取り入れつつ、実態に応じた指導法の工夫を図る。

令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果及び分析・考察 【算数】

| 分類 | 区分 | 平均正答率(%) | | |
|-----------|----------|----------|------|------|
| | | 貴校 | 東京都 | 全国 |
| 全体 | | 56 | 67 | 62.5 |
| 学習指導要領の領域 | A 数と計算 | 59.6 | 71.0 | 67.3 |
| | B 図形 | 43.4 | 54.8 | 48.2 |
| | C 測定 | | | |
| | C 変化と関係 | 65.1 | 75.8 | 70.9 |
| | D データの活用 | 56.6 | 67.3 | 65.5 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 62.0 | 71.5 | 67.2 |
| | 思考・判断・表現 | 47.9 | 61.2 | 56.5 |
| 問題形式 | 選択式 | 50.5 | 63.2 | 57.7 |
| | 短答式 | 70.3 | 78.0 | 74.7 |
| | 記述式 | 37.2 | 52.4 | 47.3 |



【考察】

- 全体の平均正答率は、全国から約6ポイント下回り、東京都から11ポイント下回っている。
- 「学習指導要領の領域」の『A 数と計算』、『B 図形』において、全国又は東京都の平均と比べて正答率が低い。図形では、面積の問題等での誤答が多かった。また、数と計算では、小数の乗法や除法の問題での誤答が多く見られた。変化と関係では、1あたりの量から全体の量を求める問題において、誤答や無回答が多かった。日常の授業から答えの見通しをもたせ、問題を図式化や数直線等を活用して解決するなどの取り組みが必要となってくる。
- 「思考・判断・表現」に関する正答率が全体的に低くなっているため、普段の学習から課題解決や問題解決の際に、自分の考えを書いたり伝えたりできるような指導を一層目指す。